

図書館通信

静岡大学附属図書館報

No. 149



2004.11

- シリーズ“すばらしい本の世界”
- 研修報告
- シリーズ“!”第16回著作権について
- 教員著作寄贈図書一覧
- ガイダンス実施報告
- モニター会議報告
- 図書館の動き



頭の中の人生劇場



田中 昭

1. 本の魔力

南極は暑かった。燃えるようだった。それまではもっぱらマンガ本だったけど、初めての本格的な活字の本。当時中学生のぼくが、兄貴の本棚から抜き出し、布団の中で寝ながら読んだ岩波新書の「南極越冬記」だ。越冬隊長のもつ自然と人間への強烈な情熱に突き動かされて一気に読んだ。極寒の南極のなんと暑く感じたことか。隊長、西堀栄三郎が中々に個性的で有名な先生であることを知ったのは、静大の学生になってからだ。ぼくは彼が好きだ。会ったことはないけど。

南極を暑くしてしまうような文章のもつ魔力に驚いたぼくが、最初に嵌まり込んだのは夏目漱石だ。「坊ちゃん」「我輩…」から始まって手

当たり次第に読んだ。もちろん中身は、いまふうに言えば“チョーおもしろ”であるが、ぼくが特に気に入ったのは漱石の書く文体だった。無駄なく短く歯切れのよい文体を何かに付けて真似た。夏休みの宿題の日記を提出したら、担任の国語の先生が、「おまえ、漱石、読んどんか（読んでいるのか）」と言った。「やった！」と思った。この頃まではぼくも純粹だった。

高校時代には「世界の文学」に出会った。ドストエフスキーの「罪と罰」では読んでいるうちに、自分の犯した罪の重さに頭を抱えて自問自答を繰り返す主役の男に成り切ってしまい、ぼくの頭の中もおかしくなった。トルストイの「復活」では、少し斜視のある（妙にこのことが印象に残っている）愛くるしい目のカチャー

シャに恋をした。物語そのものは忘れたが、彼女の面影だけははっきりと思い出す。もちろんぼくだけの幻影だけど。そういえば「野菊の墓」の民子さんにも恋をした。そういえばあの主人公にも、この主人公にも。あの頃はめったやたら、小説を読むたびに新しい女性に恋をした。恋に恋する思春期だった。同時に受験期だったので大変だった。

2. 空想と文化

それから幾星霜。現実揉まれて、もうすぐ還暦である。ぼくの空想した恋人たちは遠い思い出になってしまったが、いまの学生諸君はどんな思春期を過ごしたのだろう。いまやテレビやパソコンが日常である。恋に限らず何事も、一人で空想する以前に、万人向けのリアルな映像に出会ってしまう。ある作家がある本の中で言った。「『ぼくの横に絶世の美女が座った』と書けば、百人の読者の横に、百人百様の美女が現れる」と。近年は違う。百万人の視聴者が同じ一人の“ヨン様^(注1)”を見て、同時にため息をついている。美人を空想して頭の中に描くことは個人の感性の能動的な活動であるが、ヨン様のお姿がアプリオリに与えられてしまえば、あとは受動的な感性に基づく反射的行動、すなわちこの場合、ため息しか出まい^(注2)。能動型感性か、受動型感性か。感受の様式が変化すれば、当然ぼくのような空想ボケ老人とは異なる価値観の文化が創り出されていくことになるだろうが、その文化が空想力の価値を認めない文化であると大問題である。科学にしろ芸術にしろ、いわゆる創造創作といった歴史的展開は空想による飛躍から生まれてくるのだから。未来を担う学生諸君は大いに読書して大いに空想すべきである。

(注1：ペ・ヨンジュン。当世、人気の韓国ドラマ「冬のソナタ」の主演男優)

(注2：ヨン様が悪いと言っているのではない)

3. 「若いうちに読書せよ」

おせっかいで言うのではない。若者は目も良い。記憶力もある。徹夜もできる。いろんなジャ

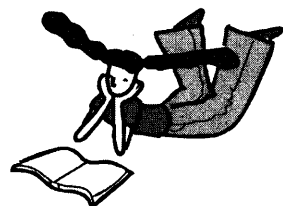
ソルの本が好きなだけ読める。歳をとるとそうはいかない。第一に目が言うことを聞かなくなる。体力、気力も衰える。物覚えも悪くなるし、頑張ると肩が凝る。とかく読書がうっとうしい。だから食べ物と同じで、脂っ濃い読み物は読む気がしない。どうしてもさっぱりした歴史物、それも文庫ものや新書ものが多くなる。

歴史物と言え、中でも司馬遼太郎のファンである。「項羽と劉邦」のように、古代中国を扱ったものは、スケールが壮大で大好きである。この本は、現代競争社会のリーダー向け教科書として盛んに宣伝された。連戦連敗の劉邦が勝者となり、連戦連勝の項羽が敗者となる。この過程にリーダーとしての資質を探ろうとするものだ。すでに半分枯れかかったぼくにとってはどうでも良いのだが、学生諸君は一読しておいて損はない。要は、リーダー一人がいかによろしい素質をもっているか高が知れている。リーダーを取り巻く人々との関係が力を発揮するのである。「徳川家康」などもその良い例であることはよく知られている。

と、なると、自己研鑽とともに、適材適所、人を集める組織力も大事である。組織論ともなれば「実録満鉄調査部」や「ドイツ参謀本部」、最近では「参謀本部と陸軍大学校」などが示唆に富む。血であがなって得た人類の歴史もある。学ぶべきことは学びとって未来に活かせ。

“お堅い本はどうも敷居が高くて”という人には邱永漢の「西遊記」などはいかが。あの高尚な古典を実に見事に低俗に翻訳している。元氣一杯の孫悟空や猪八戒の挿絵もあって、笑い転げることも必至である。ご存知、三蔵法師が経典を持ち帰ったそう。その中にあったかどうかは知らないが、「般若心経」がぼくの最後の読み物になれば、極楽ごくらくである。

(電子工学研究所)



【紹介された本】 (静＝静岡本館/浜＝浜松分館)

◎ 『南極越冬記』 西堀栄三郎著(岩波新書)

静／開架新書 [297.9/N81/S]

浜／文庫新書コーナー [081/I95SB/318]

◎ 夏目漱石(漱石の図書は多数あるので、開架の全集を挙げました)

・『漱石文学全集』 静／開架 [918.6/N58/1-11]

・『漱石全集』 浜／開架 [918.68/42/1-35]

◎ 罪と罰／ドストエフスキー著

・『ドストエフスキー全集』 6

静／開架 [988/D88/6]

・『世界文学体系』 35

静／閉架 [908/SE22/35]

浜／開架 [908.3/40/35]

◎ 復活／トルストイ著

・『トルストイ全集』 11

静／開架 [988/TO47/11]

浜／開架 [発注中]

◎ 野菊の墓／伊藤左千夫著

・『野菊の墓:他4篇』 (岩波版はるぶ図書館文庫)

静／開架文庫 [913.6/I89/B]

・『シリーズ・人間図書館』 102

浜／開架 [910.26/SA42/102]

◎ 項羽と劉邦／司馬遼太郎著

・『司馬遼太郎全集』 45-46

静／開架 [918.6/SH15/45-46]

浜／開架 [発注中]

◎ 徳川家康は図書館で所蔵する小説を挙げました。

OPACで「家康」といれて検索すると42件ヒットします。

・『徳川家康』 山岡荘八著

浜／開架 [913.6/54/1-13]

・『影武者徳川家康』 隆慶一郎著

静／開架文庫 [913.6/R98/B1-3]

◎ 『実録満鉄調査部』 草柳大蔵著

静／開架・閉架 [335.49/KU84/1-2]

浜／開架 [発注中]

◎ 『ドイツ参謀本部』 渡部昇一著 (中公新書)

静／開架新書 [392.34/W46/S]

浜／開架 [発注中]

◎ 『参謀本部と陸軍大学校』 黒野耐著

(講談社現代新書)

静／開架 [発注中]・浜／開架 [発注中]

◎ 西遊記

・『西遊記』 邱永漢著

(当図書館では所蔵していませんが、静岡・浜松の公共図書館にあります。)

・『西遊記』 呉承恩作、小野忍、中野美代子訳

(岩波文庫)

静／開架文庫 [923.5/G54/B1-10]

浜／開架 [発注中]

◎ 『般若心経』に関する図書もたくさん所蔵していますので開架図書を紹介します。

・『般若心経の世界』 瓜生中、渋谷申博著

静／開架 [183.2/U89]

・『般若心経』 (講談社学術文庫)

静／開架文庫 [081/KO19/B1479]

・『世界教養全集』 10 (中に「般若心経講義」高神覚昇著あり)

静／閉架 [080/SE222/10]

浜／開架 [080/SE22/10]

・『般若心経・金剛般若経』 (岩波クラシックス)

静／開架 [183.2/H29]

・『生きて死ぬ智慧』 柳沢桂子、堀文子著

静／開架 [発注中] (般若心経現代語訳)

ほか多数

◎ マークス寿子の本 (※出版社はすべて草思社)

・『自信のない女がブランド物を持ち歩く』

静／開架 [発注中]

・『ひ弱な男とフワフワした女の国日本』

静／閉架 [361.5/MA38]

・『とんでもない母親と情ない男の国日本』

静／閉架 [361.5/MA52]

・『ふにゃふにゃになった日本人：しつけを忘れた父親と甘やかすだけの母親』

静／閉架(研究室貸出中) [367.3/MA38]

・『大人の国イギリスと子どもの国日本』

静／閉架 [361.5/MA52]

浜／開架 [361.5/MA38]

・『英国貴族になった私』

静／閉架 [289.3/MA52]



タイトルは軽いけれど考えさせられる

本のススメ

—「自信のない女がブランド物を持ち歩く」マークス寿子（草思社）—



大石 倫子

この人が書くエッセイのタイトルは常に刺激のかつ挑戦的である。本当にそうかな—と思いつつ、でもたぶん当たっているに違いないと思わずにはいられない、そんなタイトルである。そのタイトルに誘われてこの人が書いたエッセイを何冊か読んできた。2年間、アメリカで留学生活を送って帰国した直後によく抱いた感情が、彼女の本を読むと思ひ起こされる。

初めて外の世界を覗くと、内なる世界がちっぽけに見える。それで何もかもを知った気になってしまうのはまだまだ初心者なんだろうと思う。何度か繰り返し外の世界に触れると、自国の良さも再確認し、最初はすばらしいと思っていた外の国も、そんなに大したことはないと思えるようになる。冷静に複数の国を分析して比較できるようになる。著者はそういう視点で、イギリスと日本の文化や人の違いを、鋭いタッチで斬りまくる。それが結構爽快で、出版作品が増えるにつれてよりエキサイティングになるタイトルの新作を見かけると、ついつい買って読んでしまう。

今回の本はこの5月に見つけたものだが、2年程前に出版されたものだった。自分自身、ブランド物を全く持っていないとは言い切れない弱みもあり、恐いもの見たさで買ってしまった。もくじには「ゆずりあいを忘れた日本人」、「感情をコントロールできない人たち」、「個人の自立、国の自立」といった章が並ぶ。更に小さな見出しには、「しつけと虐待をとりちがえる」、「平気でプライバシーをさらけ出す人たち」、「人の価値をものではかる非常識」、「損得で子

どもを生む女たち」、「無表情なのに突如感情を爆発させる若者たち」、「どこかでずれた日本人の危機意識」、「日本の学生の第一の特徴は幼稚なことだ」等々、日本人でなくともドキッとす言葉が並んでいる。読み進むにつれて、違う文化圏の人から見たら「どうもおかしい」と思うようなことが日本では本当に数多く起こっているということがわかってくる。時々、耳が痛い、反省あるのみ、と思うこともあるが、自分も年をとったものだ、自分の中に垣間見える老婆心に驚くこともある。でも、ほとんどの場合、「うんうん」とうなずきながらページを繰っているのである。

もちろん、私自身、最初にも述べたように、すべてイギリス（著者はイギリスに長く住んだ経験があるため、特に日英を比較している）が良く、日本が悪いと言っているわけではない。例えば、日本に古来から脈々と受け継がれてきた伝統や慣習が失われつつあることも彼女は憂えているのである。古きよき時代の日本の文化や心、考え方が、いつの間にか、とても軽い、中身の無いものと取り替えられてしまった危機感を感じないではいられなくなる。よその国の成熟度を見せつけられるにつけ、日本人はいつの間にこんなふうになってしまったのか？ いったんになったら、この方向性のズレに気づくのだろう？ そんなことを考えさせられる。

他に、「ふにゃふにゃになった日本人」、「大人の国イギリスと子どもの国日本」などの著書がある。

（大学教育センター）

【紹介された本は3ページへ】

目録システム講習会研修報告・著作権実務講習会報告

目録システム講習会研修報告

平成16年7月28日から30日まで、猛暑の中、国立情報学研究所で行われた目録システム講習会(雑誌コース)に参加しました。地上20階、窓の外には皇居が一望できるという気持ちの良いオフィスの中で講習を受けました。

目録システムというのは全国の大学図書館などにどのような文献が所蔵されているかという目録所在情報がわかる総合目録データベースを構築するためのシステムです。参加している図書館が共同でデータを入力し、自館の目録データベースを作成したり、ILL^(※1)や Webcat、NACSIS-IR^(※2)などで利用することが出来ます。

この講習会ではこの目録システムの構成や、データの検索・入力・作成方法などを学びました。システムへのデータ入力に際しては想像していた以上に非常に細かく、複雑なルールがあります。誰

もがこのデータを見たときに理解できる方法で入力しなければならないからです。しかし、長い期間にわたって発行される雑誌の場合、途中で誌名が変わったり、1つの雑誌が2つの雑誌に分裂したりと複雑になっていることもあり、なかなか一筋縄ではいかないこともあります。

静岡大学の図書館でも OPAC や他大学に文献複写や相互貸借をお願いする際に、日常的に利用しています。利用者の皆さんも日頃当たり前のよう利用している Webcat や OPAC もこのように日本中の人が一緒になって作っているのだと思えば、少し親しみを抱いていただけるのではないのでしょうか? (分館サービス係 竹村寛子)

※1 文献複写や相互貸借を行うシステム

※2 広範囲の分野の文献情報、学術情報などをオンラインで提供する情報検索サービス

著作権実務講習会報告

平成16年8月4日から6日まで、文化庁主催で東京大学にて開催された図書館等職員著作権実務講習会に参加してきました。大講義室の2階席までいっぱいになるほど多くの参加者がいて、著作権に対する関心の高さが伺えました。

著作権という言葉について、最近ではテレビのニュースや新聞に取り上げられる機会も何かと多くなり、注目されるようになっていきます。それにはコンピュータやデジカメなどの機器の普及による著作物のマルチメディア化が進んで、紙などのアナログ媒体から CD や DVD など急速に転換していることがあげられます。高速、高品質にコピーが出来るようになった反面、著作権を侵害してしまう危険性の増大を招いているともいえます。

このような情報化は図書館をとりまく環境にも当てはまることです。図書館では電子ジャーナル

やデータベースの利用が増えていますが、著作権について今まで以上に正しい知識を持つよう心がけていかなければなりません。

講習会では最近の法改正についても触れたテキストを用いて、教育機関や図書館での資料の扱い方について実践的でたいへん勉強になりました。講習会のテキストや関係資料は、文化庁の著作権のホームページ^(※)でも閲覧できるようになっています。(図書情報係 杉山智章)

※文化庁のホームページアドレス

<http://www.bunka.go.jp>



シリーズ “!” 第16回

そのコピー違法ではありませんか？

図書館にはコピーコーナーがありますが、利用の際には、さまざまな利用制限があります。

なぜならば、図書館資料のほとんどが「著作権」のある著作物だからです。

そのため図書館での複写は著作権法で定められた範囲内のみ可能となります。

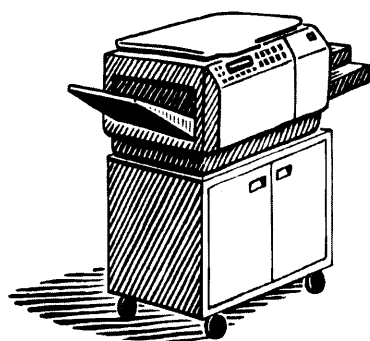
*** 著作権法第31条（図書館等における複製） ***

図書、記録その他の資料を公衆の利用に供することを目的とする図書館その施設で政令で定めるもの（以下この条において「図書館等」という。）においては、次に掲げる場合には、その営利を目的としない事業として、図書館等の図書、記録その他の資料（以下この条において「図書館資料」という。）を用いて著作物を複製することができる。

1. 図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の一部分（発行後相当期間を経過した定期刊行物に掲載された個々の著作物にあっては、その全部）の複製物を1人につき1部提供する場合
2. 図書館資料の保存のため必要がある場合
3. 他の図書館等の求めに応じ、絶版その他これに準ずる理由により一般に入手することが困難な図書館資料の複製を提供する場合

いわゆる

- ◆ 利用者の調査研究目的のための複製であること
- ◆ 図書館の所蔵資料であること
- ◆ 公表された著作物の一部分※1の複製であること
- ◆ 定期刊行物にあっては発行後相当期間※2を経過したもの
- ◆ 利用者1人につき1部の複製であること



- ※1 著作物の半分を超えない範囲
 ※2 次号が既刊になったもの、または発行後3ヶ月を経たもの

図書館での複写はこれらの条件を満たしているか注意し、複写申込み用紙に記入後複写をしてください。

では、著作権っていったい何でしょう??

小説や音楽などの作品を無断使用から守るための権利です。

他人が創った 小説・音楽・美術・映画・写真・コンピュータソフトなどは著作者に無断で使用できないのです。

例えば **無断使用できないものに**

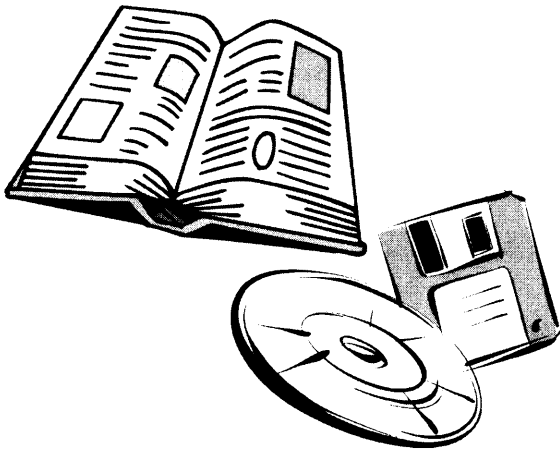
- ◆ 音楽を演奏すること
- ◆ 作品を放送すること
- ◆ 作品を複製（録画・録音・ダウンロード）すること
- ◆ 絵・写真などを展示すること
- ◆ 作品をネット上で送信すること
- ◆ 小説を朗読すること
- ◆ ビデオを上映すること

などがあります。

例外事例として

- ▷ 私的利用のための複製使用
- ▷ 営利目的でない使用
- ▷ 授業のための部分的な複製

などが認められています。



- 著作物の保護期間は 原則著作者の死後50年間です。
- 著作権侵害に対する刑事上の制裁措置は 3年以下の懲役または300万円以下の罰金に処せられます。

著作権にはさまざまな利用制限がありますので詳しくは文化庁ホームページにアクセスしてください。

<http://www.bunka.go.jp>

～教員著作寄贈図書一覧～

このリストは本学教職員により著作(等)され図書館にご恵贈していただいた
図書を一覧にしたものです。(各館五十音順)

●本館受入

- ◇浅利一郎, 土居英二, 山下隆之, 伊東暁人, 榎本
正博 (人文学部)
・はじめよう経済学のための情報処理: Excelに
よるデータ処理とシミュレーション. 改訂版
日本評論社 閉架[331.19/H16] <共著>
- ◇浅利一郎, 山下隆之 (人文学部)
・はじめよう経済数学 日本評論社
閉架[331.19/A88] <共著>
- ◇石井正春 (教育学部)
・情緒障害児のアセスメントと臨床・教育心理学
的研究 日本図書センター
閉架[378.8/I75] <著>
- ◇伊藤恭彦 (人文学部)
・現代規範理論入門: ポスト・リベラリズムの新
展開 ナカニシヤ出版
閉架[309.04/A71] <共編>
- ◇熊野善介 (教育学部)
・地域(静岡市)に密着した環境負荷の少ないライ
フスタイル転換のための環境教育の企画・運営・
実践に関する研究 (静岡市エコアッププログラ
ム作成事業, 平成14年度)
閉架[519.1/KU34/2002] <研究代表>
・静岡市エコアッププログラム作成事業
平成15年度
閉架[519.1/KU34/2003] <研究代表>
- ◇郷式徹 (教育学部)
・地域で親子をどう支えるか: 発達相談を通し
て見えて来るもの 三学出版
閉架[369.4/SH94] <執筆>
・実験で学ぶ発達心理学 ナカニシヤ出版
閉架[376.11/SU39] <執筆>
- ◇佐藤誠二 (人文学部)
・アカウンティング: 企業経営と会計情報
税務経理協会 閉架[336.9/SA85] <共著>
- ◇里村幹夫 (理学部)
・地球が丸ってほんとうですか?: 測地学者に
50の質問 朝日新聞社
閉架[448.9/O54] <執筆>
- ◇露無慎二 (農学部)
・Genomic and genetic analysis of plant
parasitism and defense.
American Phytopathological Society
閉架[467.7/G34] <共編>
- ◇東郷敬一郎 (工学部)
・材料強度解析学: 基礎から複合材料の強度解
析まで 内田老鶴圃
閉架[501.32/TO23] <著>
- ◇遠山弘徳 (人文学部)
・入門社会経済学: 資本主義を理解する
: An introduction to political economy
ナカニシヤ出版 閉架[331/N99] <共著>
- ◇中本義彦 (人文学部)
・安息日の前に 作品社
閉架[289.3/H81] <訳>
・エリック・ホッファー・ブック: 情熱的な精
神の軌跡 作品社
閉架[289.3/H81S] <執筆>
・魂の錬金術: エリック・ホッファー 全アフォ
リズム集 作品社 閉架[937/H81] <訳>
- ◇南富鎮 (人文学部)
・張赫宙日本語作品選 勉誠出版
閉架[913.6/C52] <共編>
- ◇野方宏 (人文学部)
・地域開発と企業成長: 技術・人材・行政
日本評論社
開架, 閉架[601/MA65] <執筆>
- ◇林部敬吉 (情報学部)
・3次元視研究の展開 酒井書店
閉架[141.21/H48] <著>
・心理学における3次元視研究 酒井書店
閉架[141.21/H48] <著>
- ◇半田智久 (大学教育センター)
・知能環境論: 頭脳を超えて知の泉へ NTT 出
版 閉架[141.1/H29] <著>
・知能のスーパーストリーム 新曜社
閉架[141.1/H29] <著>
・パースナリティ: 性格の正体 新曜社
閉架[141.93/H29] <著>
・事業構想学入門 学文社
閉架[336.1/MI73] <執筆>

- ・脳：心のプラットフォーム 新曜社
閉架[491.371/H29] <著>
- ◇松田純 (人文学部)
・人間の尊厳と遺伝子情報 知泉書館
閉架[131/MA74] <著>
- ◇松田禎二 (名誉教授)
・古代ギリシアの思想と文化 行路社
閉架[490.15/G34/1] <監訳>

●分館受入

- ◇秋山鐵夫 (工学部 名誉教授)
・黒岳のふくろう 新風舎
閉架[723.1/A38] <著>
- ◇荒木信幸 (工学部)
・JSSUME '96: Joint symposium on applied mechanics, materials science and thermo-fluids engineering, 5-6 August, 1996, lake Hamana, Hamamatsu, Japan.
Department of Mechanical Engineering, Shizuoka University
閉架[501.32/J66/1996] <Co-Chairman>
- ◇大江泰一郎 (人文学部)
・アジアの進路と地球の運命
(アジア遊学, 別冊No.1) 勉誠出版
閉架[302.2/SH94] <総合司会>
- ◇小和田哲男 (教育学部)
・奔る雲のごとく : 今よみがえる北条早雲
北条早雲フォーラム実行委員会
閉架[289.1/H81H] <監修>
- ◇鎌田哲宏 (情報学部)
・情報化社会における地域産業・社会の階層構造変容と地域住民の生活変容ー広域圏内での静岡県浜松市の比較調査研究ー(平成10年度ー平成11年度科学研究費補助金(基盤研究(A))研究成果中間報告書) [静岡大学]
閉架[007.3/KA31] <研究代表>
- ・情報化社会における地域産業・社会の階層構造変容と地域住民の生活変容IIー広域圏内での静岡県浜松市の比較調査研究ー(平成10年度-平成13年度科学研究費補助金(基盤研究(A))研究成果報告書) [静岡大学]
閉架[007.3/KA31] <研究代表>
- ◇東郷敬一郎 (工学部)
・材料強度解析学 : 基礎から複合材料の強度解析まで 内田老鶴圃
閉架[501.32/TO23] <著>
- ◇畑中義式 (名誉教授)
・IDW '95: proceedings of the 2nd International Display Workshops, October 19, 1995, Congress Center, ACT CITY Hamamatsu, Hamamatsu, Japan.
Vol. 1. IDW '95 Committee
閉架[549.9/I57/1995(1)]
<Local Arrangement Chair>
- ・IDW '95: proceedings of the 2nd International Display Workshops, October 19, 1995, Congress Center, ACT CITY Hamamatsu, Hamamatsu, Japan.
Vol. 2. IDW '95 Committee
閉架[549.9/I57/1995(2)]
<Local Arrangement Chair>
- ・IDW '95: proceedings of the 2nd International Display Workshops, October 19, 1995, Congress Center, ACT CITY Hamamatsu, Hamamatsu, Japan.
Vol. 3. IDW '95 Committee
閉架[549.9/I57/1995(3)]
<Local Arrangement Chair>
- ◇林弘文 (名誉教授)
・今井功 流体力学講義ノート 林弘文
閉架[423.8/H48] <共編>
- ・地球環境の物理学 共立出版
閉架[450.12/C44] <共著>
- ◇林部敬吉 (情報学部)
・3次元視研究の展開 酒井書店
閉架[141.21/H48] <著>
- ・心理学における3次元視研究 酒井書店
閉架[141.21/H48] <著>
- ◇福田明 (工学部)
・理工系のための応用確率論. 基礎編 森北出版
閉架[417.1/F74] <著>

卒論・修論を書くための情報収集講座実施報告（静岡本館）

平成16年10月18日（月）から10月29日（金）まで『卒論・修論を書くための情報収集講座』を実施しました。台風接近のため中止となった10月20日を除き合計9回実施し、55名の方が参加されました。昨年はゼミ・グループでの参加が目立ちましたが今年度は掲示等をご覧いただき個人で参加された方が多くいました。

“文献をどうやって探すのか”と”探した文献の入手方法”を中心に説明、実際に文献データベースを使って検索をしていただきました。アンケートからすると概ねご理解いただけたかと思われま

す。内容が情報探索全般的なものだったため、既に文献検索の経験がある人にとってはものたりないと思われた方もいらっしゃるようでした。時期的には今の時期でよいという意見ともっと早い時期にという意見がありました。実施方法、説明方法、広報についてもご意見をいただきました。今後、内容はもちろん、ご意見をいただいた事項を考慮にいれながらできるだけ多くの方が参加できるよう充実させていきたいと思います。

（レファレンス係）

文献検索ガイダンス実施報告（浜松分館）

浜松分館において、学部3・4年生および大学院生を対象に、文献検索ガイダンスを行いましたので報告いたします。

実施期間：10月4日～10月29日

実施場所：浜松分館 SCS メディアルーム

応募方法：申込み制

実施回数：21回

実施人数：126人

ガイダンスの内容は以下のとおりです。

1. 文献入手法
文献の検索、資料の所在調査、文献の入手、その他情報 等
2. 各種データベース・電子ジャーナルの説明
J Dream, NACSIS-IR, MAGAZINEPLUS, SciFinder, その他（INSPEC, 新聞検索等）から申込みのあったデータベース、および電子ジャーナル
3. 検索実習
4. 書庫案内

ガイダンスの最後にアンケートにご協力いただきました。アンケートで頂いたご意見は、来年の参考にさせていただきます。アンケートでは、多くの方から「満足した」「有意義」との

意見をいただきましたが、なかには「学生もコンピュータを使いながら説明を聞いた方がよいのではないか」「ガイダンスの存在を知らない人がいるのではないか」等の意見もいただきました。また、特に「夏休み前に実施して欲しい」という意見が多かったので、来年以降考えていかなければならない課題だと思います。

参加者の皆さんには、このガイダンスを、今後研究・論文作成に役立てていただければと思います。

（分館サービス係）

【浜松分館実習風景】



平成16年度第1回附属図書館利用学生モニター会議を開催しました

[本館]

平成16年10月8日午後1時30分より本館大会議室において平成16年度第1回利用学生モニター会議を開催しました。モニターとして留学生を含めた8名の利用者に参加いただき、図書館職員8名と率直な意見交換を行いました。資料については文学や専門の新しい情報の充実、施設面では検索パソコンの配置や喫煙場所など、運用では窓口での留学生への対応などいろいろと有用なご意見・ご要望を伺うことができました。



[分館]

平成16年9月29日午前10時30分から浜松分館 SCS メディアルームにおいて平成16年度第1回分館モニター会議・利用者懇談会が行われました。昨年度までは委嘱された学生モニターの方々と図書館職員が図書館サービスについて意見を交わしていましたが、今年度からモニター会議と利用者懇談会を同時に開催することによって、学生モニターではないけれども図書館に意見・要望のある学生の方とも意見を交わすことができました。会議では図書館を利用する目的から始まり、電子ジャーナルの契約についてや空調の話、リクエストボックス・投書箱の利用についてまで、様々な話題がのびりました。



今回頂いたご意見はこれからの図書館サービスに生かしていきたいと思います。

今後もモニター会議・利用者懇談会は随時行う予定です。図書館についてご意見のある方は、広く参加者を募集いたしますので是非モニター会議・利用者懇談会にご出席ください。

図書館の動き

◆会 議

第51回国立大学図書館協会総会

<平成16年7月1日(木)>

於：大阪大学コンベンションセンター>
附属図書館長、学術情報部長、情報管理課長、情報サービス課長が出席。

4月1日施行の新会則の下で「国立大学図書館協会」と名称変更した後の最初の総会が、組織運営のスリム化を目的に従来の2日間から1日に短縮して開催された。

協会活動についての経過報告に続き平成15年度決算報告、平成16年度事業計画(案)・予算(案)、文部科学大臣等への要望書などについて協議が行われた。また、文部科学省研究振興局情報課長から、国立大学法人化後の国立大学図書館の在り方、平成16年度大学図書館関係予算、国立大学図書館における特色ある取組についてなど所管事項説明があった。

午後からは、今年から新たな試みとして、テーマごとにワークショップが行われ、職員採用から人材育成まで、電子ジャーナルの円滑な導入等、法人化後の図書館の在り方についての3つのテーマについて活発な議論が行われた。総まとめの全体会議では、ワークショップでの協議を受け、人材育成に係る研修についての役割分担の明確化、NACSIS-CAT/ILLの品質管理等について問題解決に向けたテーブルを国立情報学研究所との間に設置することが決議された。

平成16年度第2回静岡大学附属図書館委員会

平成16年7月8日(木)

○審議事項

1. 平成15年度図書館経費(備付資料費)の決算、平成16年度同予算(案)及び平成16年度学生用図書購入費の配分(案)等について
2. 平成15年度図書館経費(運営費)決算及び平成16年度同予算(案)について
3. 2005年電子ジャーナル経費等について
4. その他

○報告事項

1. 平成16年度附属図書館利用セミナーの実施
2. 附属図書館利用状況
3. その他
 - (1) 附属図書館利用マニュアル(教員用)2004
 - (2) 電子ジャーナル&2次資料データベース利用状況

平成15年度静岡県大学図書館協議会総会

<平成16年7月28日(木)>

於：静岡産業大学SSU磐田駅前学舎>
附属図書館長、学術情報部長、情報サービス課長、図書館専門員が出席。

19館から24名が参加し、平成15年度決算報告(案)及び同監査報告、平成16年度事業計画(案)及び同予算(案)などについて協議が行われた。また、設置形態が異なる図書館ごとに、図書館活動や協議会活動などについて状況報告があり、加盟館相互の連携を深める上で有意義な情報交換が行われた。

引き続き、静岡産業大学経営学部小山博之教授による、「静岡の経営者気質あれこれ」と題した有意義な講演が行われた。

開館カレンダー (静岡・浜松共通)

2004年12月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	
	6	7	8	9	10	
	13	14	15	16	17	
	20	21	22		24	
	27	28	29	30	31	

2005年1月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	
		11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	
	24	25	26	27	28	
	31					

2月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
	7	8	9	10		
	14	15	16	17	18	
	21	22	23	24	25	
	28					

3月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	
	7	8	9	10	11	12
	14	15	16	17	18	
		22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

※3/22～3/31は蔵書点検のため休館いたします。

□ 開館 平日 9:00～22:00

■ 開館 土・日・祝日 9:00～19:00

■ 開館 平日 9:00～17:00 冬季休業期間中

□ 休館 年末年始、入試など

※ 開館日・開館時間は変更されることがあります。臨時に休館する場合は別途お知らせします。

静岡大学附属図書館報「図書館通信」第149号

(平成16年11月30日発行)

発行所 静岡大学附属図書館

URL <http://www.lib.shizuoka.ac.jp/>

〒422-8529 静岡市大谷836

Tel.054-238-4477 Fax.054-238-5408 (再生紙使用)

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

